

市民参加推進力指標による 市民参加推進計画の推進状況の把握について

～ロジックモデルを活用した評価・分析～

ロジックモデルとは

ロジックモデルとは、事業や組織が最終的に目指す変化・効果の実現に向けた道筋を体系的に図示化したもので、事業の設計図に例えられる。

事業が、どのような道筋で目的を達成しようとしているのかの仮説を示したもので、若しくは戦略を示したもので、ロジックモデルは一般的に、アウトカム、アウトプット、活動、インプットを矢印でつなげたツリー型で表現される。

なお、アウトカムとは事業や組織が生み出すことを目的としている変化・効果、アウトプットは変化・効果を生み出すために提供するモノ・サービスを言う。

(出典：日本財団「ロジックモデル作成ガイド」)

R 6年度の方針（具体的なスケジュール等は次回議題とする）

- ・ R 7年度に行う現行計画の総括及び次期市民参加推進計画の策定に向けた準備
- ・ 市立高校と連携した市民参加の裾野拡大の継続実施

今回の論点

- 市民参加推進力指標による市民参加推進計画の推進状況の把握について
 - ・ 市民参加推進力指標の運用方針や位置付けについて
 - ・ 市民参加の裾野拡大に対する指標による評価について

市民参加推進力指標に関する経過について

●令和2年度末～3年度当初

「第3期市民参加推進計画の推進に関する成果や課題等をどう分析していくか」
「「市民力」という数値で測りがたい部分について、指標を設定してはどうか」という議論を踏まえ、市民参加推進力指標の検討を開始

●令和3年度

市民参加推進力指標検討部会において考え方を整理

【市民参加推進力の定義】

市民参加における参加と協働を進める力で、市民参加推進計画の「重視する視点」と13の「施策」を進めることで市民参加推進力の向上を図るもの

【考え方】

- ・ 市民参加を後押しするもの。計画の達成を目指した施策の総和の結果、市民参加推進力の向上が図られる
- ・ 行政だけでなく、市民、事業者、大学等、地域の皆が、市政参加とまちづくりにおいて、市民参加推進力の向上を目指すもの
- ・ 誰か特定の方を評価するわけではなく、京都市全体の市民参加の健康診断のようなもの

●令和4年度

指標の内容の具体化、具体的に用いる各数値の仮決め

●令和5年度

代表的な取組について、実際に数値を当てはめてみた試行実施

市民参加推進力指標の運用方針や位置づけについて

- 第2期市民参加推進計画では、主にアンケートによる現状把握と、各施策に関連付けられた事業の実績数値により評価を行った。
第3期市民参加推進計画においては、分析に新たにロジックモデルの考え方を取り入れる。

【今後の方向性】

- ・ 13施策のうち、ロジックモデルの考え方を取り入れられるものから導入していく
- ・ まずはフォーラムの取組である「市民参加の裾野拡大」＝市立高校と連携した市民参加の推進についてロジックモデルにより事業の分析を行う
- ・ ロジックモデルで分析を行って得られた知見の活用を、次期計画策定において検討する

【参考】第2期市民参加推進計画の評価方法

- ・ 19施策のうち実績の把握が可能な1～10施策を対象に実施（第3期計画の1～8施策に対応）
- ・ 1, 4, 5, 8施策については、SNSによる発信状況、ポータルサイトのビュー数、印刷物におけるユニバーサルデザイン対応状況など、施策に関連する実績を数値等で把握して評価。
- ・ 2, 3, 7, 9, 10施策については、施策に関連する特徴的な取組を他都市の特徴的な取組と比較
- ・ 上記の材料をもとに施策の進捗等について審議